

『今、市場から求められているITエンジニアに必要なスキルとは』

2020年10月2日
Top Out Human Capital株式会社
代表取締役 船戸大輔

Top Out Human Capital株式会社

Business Information



会社概要



名称	トップアウト ヒューマンキャピタル 株式会社 正式表記：Top Out Human Capital 株式会社 英文表記：Top Out Human Capital, Inc.
本社住所	〒105-0022 東京都港区海岸1丁目2番3号 汐留芝離宮ビルディング 21階
設立	2014年(平成26年) 9月
役員	代表取締役 船戸 大輔 取締役副社長 飯山 克志
資本金	1,200万円
主要株主	船戸 大輔 飯山 克志 グローバルセキュリティエキスパート株式会社 https://www.gsx.co.jp/
業務内容	人材育成に関するコンサルティング 人材育成を目的とした研修、教育の実施 コンピュータ、ネットワーク及び情報通信全般に関するコンサルティング コンピュータシステム、ネットワークの構築、販売及び調査

2019年11月現在



認定ラーニングパートナー



- NetApp 認定ラーニングパートナー (日本で唯一の認定ラーニングパートナー)
- Cisco 認定ラーニングパートナー (日本で唯一、Collaboration, CCNP Securityコースを実施)
- EC-Council 認定トレーニングセンター (Cybersecurity、全てのEC-Council認定コースを唯一実施)
- CompTIAトレーニングパートナー (日本で唯一、Cybersecurity資格に対応する全コースを実施)
- Pythonエンジニア育成推進協会認定スクール (Pythonによる運用&監視の自動化コースを提供)
- Citrix認定ラーニングセンター (日本で唯一、Citrix SD-WANコースを実施)
- HPE Aruba認定トレーニングセンター (国内唯一、Wireless LAN、Switch、Clear Pass)
- F5 認定トレーニングセンター (BIG-IPシリーズ)
- Huawei認定ラーニングパートナー (国内唯一、5 G、Wireless LAN 他)
- IoT関連トレーニング (IoTハッキング・セキュリティ、IoT実践ハンズオン)
- Alibaba Cloud ハンズオントレーニング (1日で学べるハンズオン)
- SNIA Japan ビジネスパートナー
- Gigamon 認定トレーニング
- RedHat 認定トレーニング
- ビジネストレーニング (ITILなど)





Top Outの特長と強み



◆ **[NetApp]** 認定ラーニングパートナーとして、**多数のコースを提供する国内唯一の認定教育パートナー**

◆ **[Cisco]** Cisco認定教育パートナーの中で最も先進的なポジションに位置する企業
国内で唯一、Top Outのみが提供出来るコースも多い(Collaboration・Securityなど)
最新のDevNet対応トレーニング、Data Center (UCS, Nexus)関連コース等

◆ **[Security]** 重要度が増すセキュリティエンジニア育成トレーニングに強み

EC-Council認定プログラム：国内唯一、4つの資格対応コースを実施

「ECH（ホワイトハッカー）」「CND（ネットワークディフェンダー）」

「CHFI（フォレンジック）」「CASE（セキュアアプリケーション開発）」

CompTIA Cybersecurity認定：国内唯一、上位3資格の対応コースを提供

「CySA+」：ITセキュリティの分析～セキュリティ全体の改善を実行するスキルを育成

「PenTest+」：ペネトレーションテスト手法や脆弱性評価のスキルを育成

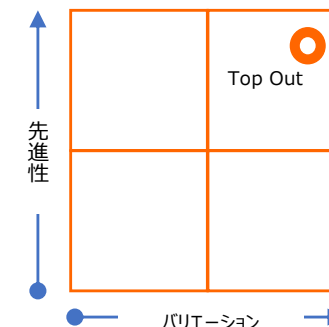
「CASP+」：最上位の認定資格。リスクマネジメント・セキュリティ規制など幅広いスキルを育成

その他 **CTFチャレンジ**、**IoTハッキング・セキュリティ** 等、ハンズオン中心のトレーニングを数多く提供

◆ **[Python]** 自動化・AI・機械学習・ディープラーニング等で活用が広がるPythonのトレーニングが充実

「Python初級編」「Python中級編」「**Python ネットワーク編**」「**Python自動化編**」「**Pythonサーバ編**」

受講者レベルに応じた演習問題の選択が可能なテキスト構成



クラスルームトレーニング

クラスルームトレーニングとは、会場に集まって受講いただく集合形式の研修です。市場のニーズに合わせた頻度で開催日程を設定する定期開催トレーニングと、個別のお客様のご要望に合わせて一社様向けに提供する特別設定コースがございます。

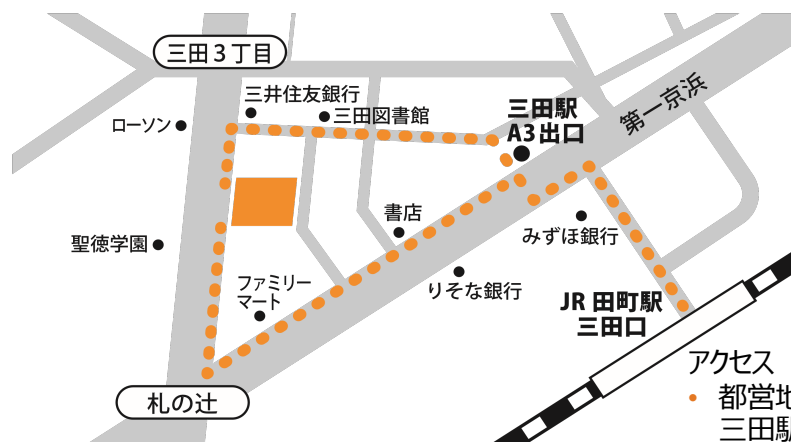
～ 定期開催トレーニング ～

Top Out Human Capitalのトレーニング会場で開催する集合研修です(※)。市場のニーズに合わせた頻度で開催日程を設定し、1名様からお申し込みを受付しています。トレーニングメニューの拡充も積極的に進めております。

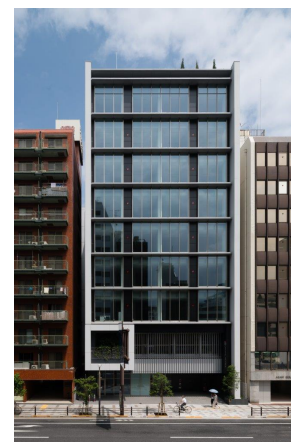
※近隣の会場で開催する場合もありますので、あらかじめご了承ください(ご予約のお客様へ事前にお知らせいたします)。

トレーニング会場

〒108-0014
東京都港区芝5丁目29番20号
クロスオフィス三田



- アクセス
- 都営地下鉄 三田線/浅草線
三田駅 A3出口から徒歩3分
 - JR田町駅から徒歩5分

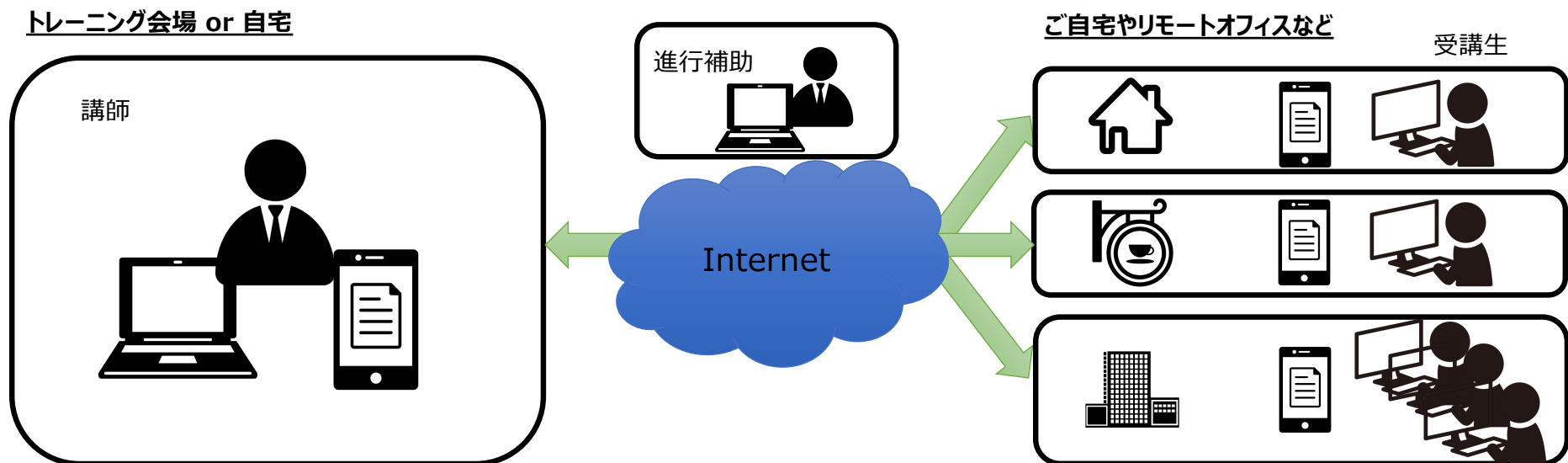


～ 一社様向けトレーニング ～

トレーニング会場の場所、人数、日程などのお客様のご希望に合わせて一社様向けに提供する、特別設定コースです。定期開催で提供中のトレーニングメニューからのご選択の他に、お客様独自のサービス/目標に合わせるカスタマイズコースの実施も承っております。Top Out Human Capitalの教育コンサルタントがお客様のご要望を伺い、最適な人材育成ソリューションを提案いたします。どうぞお気軽にご相談ください。

オンライントレーニングとは、Web会議システムなどを用い、PCを通じて受講できる双方向型のリアルタイム配信型の研修のことです。PCやインターネット環境など最低限の準備は必要ですが、受講者は外部の研修会場に赴くことなく、ご自宅やリモートオフィスなど全国どこからでも参加いただけます。ウイルス感染防止につながり、遠方からの参加も可能になりますので、大変有効な研修形態として現在注目されています。

《オンライントレーニング イメージ》



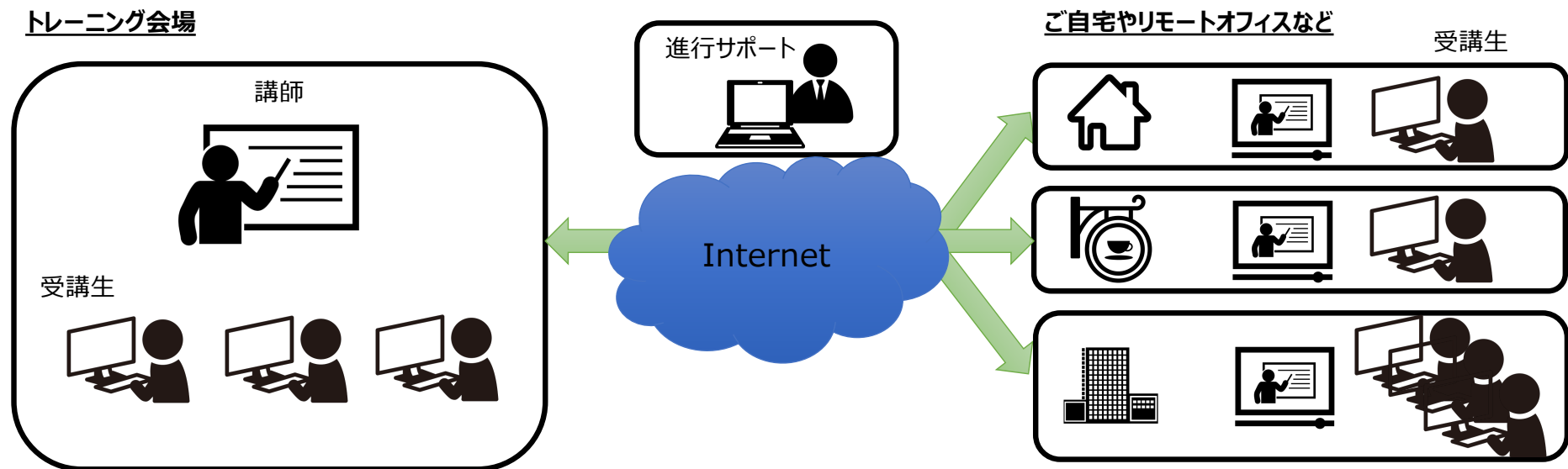
- 当社主催のトレーニングは、ほぼすべての研修をオンラインでも提供しております。
- クラスルーム形式と同様に、質問はチャットのみではなくマイクを使用して直接確認ができるため、その場で多くの疑問点を解消いただけます。
- 演習も、クラスルーム形式と同様の環境にてご利用可能です。

ハイブリッドトレーニング



ハイブリッドトレーニングとは、集合研修形式のクラスルームトレーニング、インターネット上で行われるリアルタイム配信形式のオンライントレーニングを融合し、いずれの実施形態でも受講できるトレーニングです。会場で受講したい、リモートで参加したい、などお客様個別のご要望に対応できるため、受講を計画される際の柔軟性や自由度が格段に向上します。

《ハイブリッドトレーニング イメージ》



- 当社主催のトレーニングは、ほぼすべての研修をハイブリッドクラスでも提供しております。
- 集合研修を希望される方、オンラインを希望される方、それぞれのご要望にお応えできる実施形式です。
- 一定数の人数が揃えば、貴社向けに開催することも可能です。

セルフペーストレーニング

セルフペーストレーニングとは、インターネットを利用してお客様ご自身のペースで学習できるオンライントレーニングのことです。時間や場所にとらわれずに「いつでもどこでも何度でも教育を受ける」ことができる学習スタイルです。受講者は外部の研修会場に赴くことなく、また好きな時間に学習いただけます。当面、**CompTIA認定資格対応トレーニング**のご提供を予定しております。（※全資格に対応してはおりません）

《セルフペーストレーニング(CompTIA認定資格対応編)に含まれる内容》

- テキスト(コースによって紙か電子のいずれかにてご提供します)
- 講義動画
- 確認問題
- **オンラインラボ(CompTIA Labs) ※知識の定着化、実践力強化にお勧めのコンテンツです**
- 受験バウチャー(オプション) 上記とセットでご購入いただけます

※オンラインラボ(CompTIA Labs)単体でのご提供も可能です。詳しくはお問い合わせください。



講義スライド例

《セルフペーストレーニング(CompTIA認定資格対応編)の特長》

～ 実践力が身につくコンテンツ ～

仮想環境のオンラインラボ(CompTIA Labs)を活用することによって、知識の習得だけではなく、業務で実際に発生しうるさまざまな場面で求められる設定や操作方法などについて、シナリオベースで学習できます。実際に手を動かすことができるため、実践力が身につきます。※ Cloud Essentials+は対象外

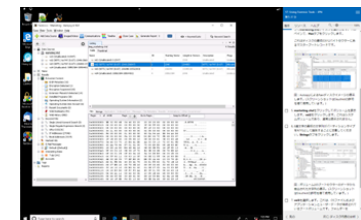
～ 充実の講義動画、確認問題 ～

講義動画は、担当講師がセルフペーストレーニング専用新たに収録を行ったコンテンツです(Security+の講義動画時間は約8時間半)。また、確認問題も各章ごとに充実した問題数を網羅しており、ご自身の理解度をチェックするのに有効です(例: Security+ 70問)。

～ 繰り返し学習可能 ～

講義動画、確認問題は180日間、オンラインラボ(CompTIA Labs)は360日間、何度でもご利用可能です。ご都合のよいスケジュールを組み、ご自身のペースで学習を進めていただけます。

※納品後、30日以内にご利用開始されなかった場合は、ご利用できなくなりますのでご注意ください。



ラボ画面例



講師陣及び主な受賞歴



◆ 講師陣

• シスコ認定インストラクタ	10名	• EC-Council認定インストラクタ	4名
• CCIE Routing & Switching 20 years を含む	3名	• Certified Ethical Hacker	2名
• CCIE Voice / Collaboration	1名	• Computer Hacking Forensic Investigator	1名
• Cisco Champions 2019, 2020	1名	• CASE Java	1名
• Cisco DevNet 500	1名	• F5 認定インストラクタ	1名
• NetApp認定インストラクタ	3名	• HPE Aruba認定インストラクタ	1名
• CASP+	1名	• Citrix 認定インストラクタ	1名
• CompTIA CySA+	1名	• Gigamon認定インストラクタ	1名
• CompTIA PenTest+	1名		

一部の資格のみ記載しています

- シスコ認定インストラクタ向けアワード受賞経験者 4 名

CCIE長期保有者(20年)のインタビュー記事が掲載されました

<https://learningnetwork.cisco.com/docs/DOC-31749>

2017 CCIE Collaboration Instructor Excellence Awardを世界で唯一受賞しました。

2019 Instructor Excellence Awardを受賞しました。

Cisco Champions 2019,2020 に選出されました。

Cisco DevNet 500 に認定されました。



変化は常に起きてきた!

このタイミングがたまたまコロナだった?



コロナ禍を経て『変化』を楽しめるエンジニア

- ある意味、お尻に火がついた状態
- 時代遅れの慣習がかなり減るかもしれない
- 完璧を装うことが不可能な時代に？
- 機械は逆年功序列
- IT(テクノロジー)と社会との良いバランス
- (おまけ) 弊社のコンペはYou Tuber ?



49 : 51



この業界で生きるものとしての使命は？

テクノロジーを使って顧客に選択肢を提供すること

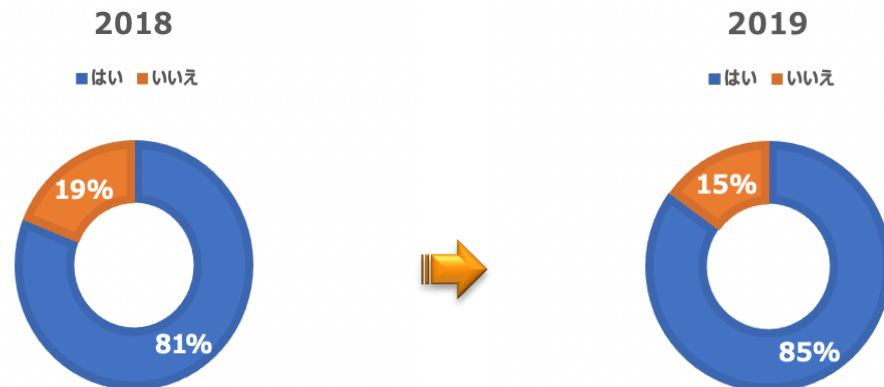
海外のオンプレミス回帰

日本のオンプレミスに固執するとは意味が違う



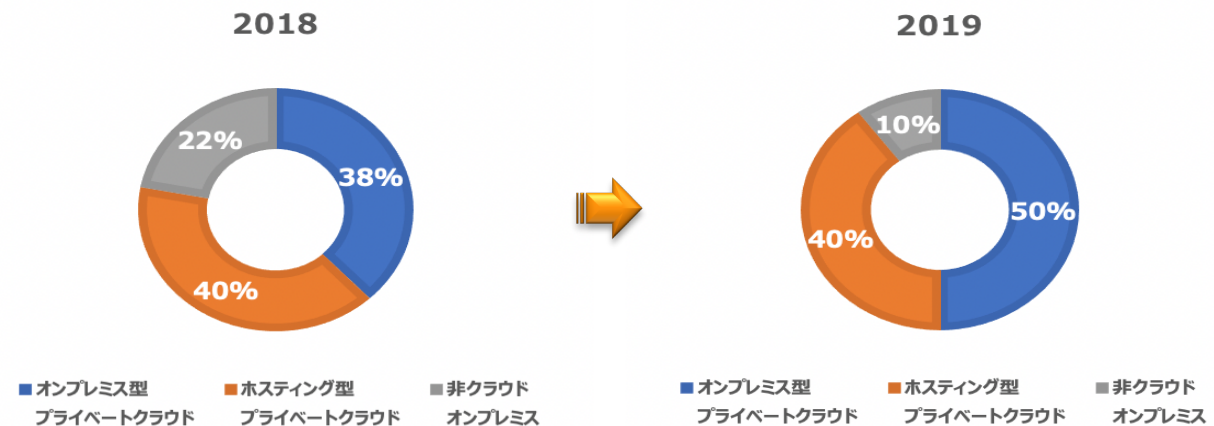
海外で進む回帰の背景①

- 日本におけるパブリッククラウド市場
(参考) IDC Japan 2020年3月発表
2019年：8,778億円(vs 2018で△22.9%)
2024年：2兆644億円(vs 2019で2.4倍)と予測
- 海外におけるアンケート調査
(参考) IDC US 2018-2019
質問『過去1年にパブリッククラウド環境に置かれていたアプリ、データをプライベートクラウドやオンプレミス環境に移行したことがあるか?』
対象 グローバル企業 約400社



海外で進む回帰の背景②

- 『はい』と答えた企業が選んだ移行先内訳



オンプレミス型プライベートクラウドへの人気が高まっている傾向が!!

例) 米国 Dropbox社 2014年にAWS利用を停止し完全移行

※ あくまでも極端な例だが、チャレンジしがいのある戦略。

※ NASAやAppleも続いている。



海外で進む回帰の理由 Top3+a

1. セキュリティ

2. コスト

3. パフォーマンス

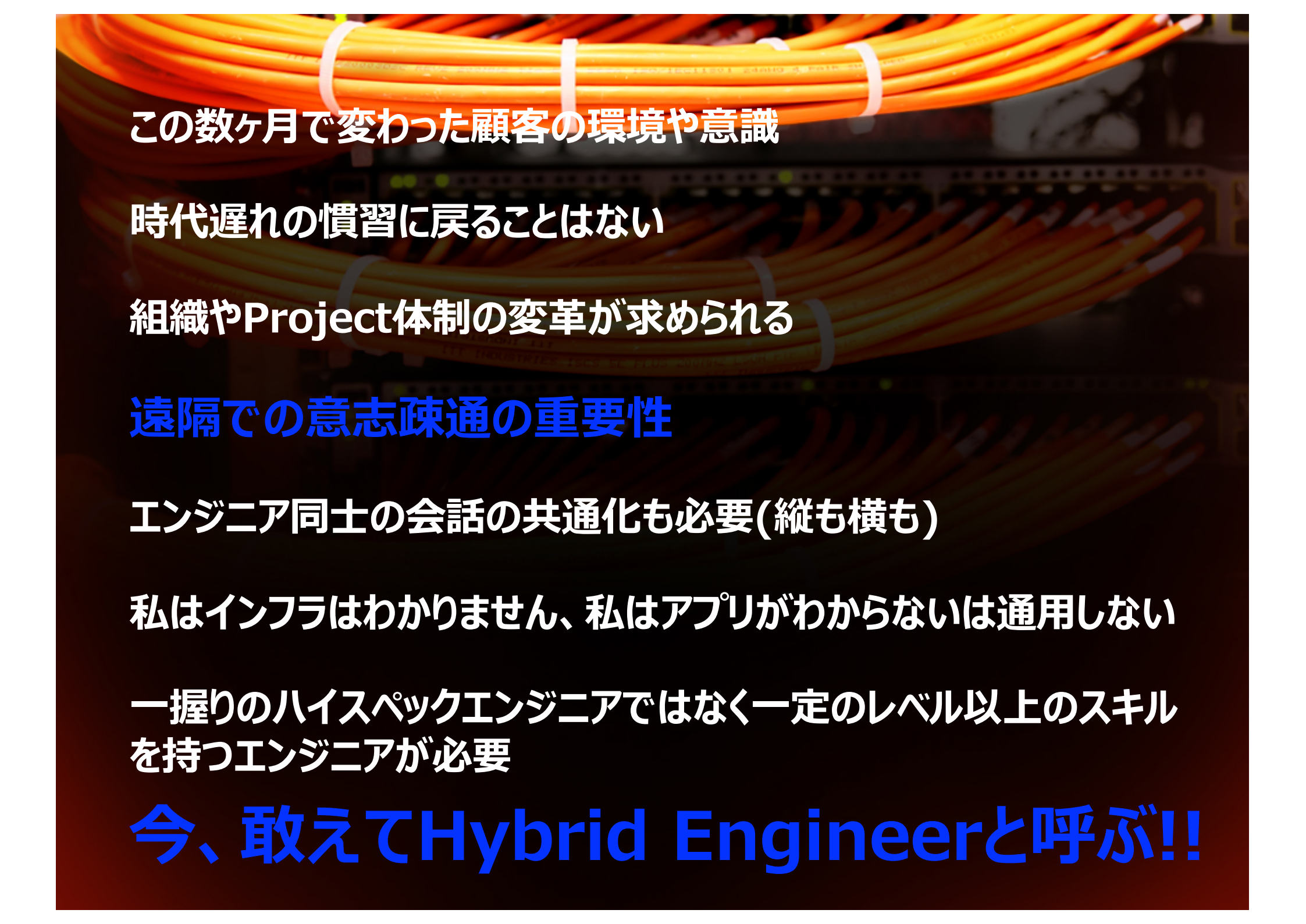
+ コンプライアンス(法令順守)



出発がなければ回帰すらない

- 海外ではクラウドのメリット,デメリットを見極めた上でオンプレを再利用
- 日本企業の中にもクラウド移行の計画を見直す企業も!
- トライもせずにオンプレに固執するのとは経験値が違う
- クラウド or オンプレではない
- どちらかを選択したほうが管理はしやすい
- どのように顧客へ選択肢を与え選んでもらうか

日本は今からがエンジニアにとっても変化を楽しめる絶好のタイミングではないか!?



この数ヶ月で変わった顧客の環境や意識

時代遅れの慣習に戻ることはない

組織やProject体制の変革が求められる

遠隔での意志疎通の重要性

エンジニア同士の会話の共通化も必要(縦も横も)

私はインフラはわかりません、私はアプリがわからないは通用しない

一握りのハイスペックエンジニアではなく一定のレベル以上のスキルを持つエンジニアが必要

今、敢えてHybrid Engineerと呼ぶ!!



**組織ごとで会話のレベル感
を揃える必要性**

